

小野学園Q&A

～フィードバックタイムに寄せられた質問にお答えします～

以下は、学校説明会最後に行われたフィードバックタイムにおいて多く寄せられた質問です。どうぞ参考になさってください。

学習について

Q.学習についていけるか心配です。

A.入学後すぐに学習習慣強化プログラムが始まり、入学前に比べて学習量が増える生徒が大多数です。また、5教科の授業がすべて習熟度別になっていますので、よりその生徒に合った授業を行っています。なお、定期テストで一定の点数に達しなかった場合は補習を実施しています。特に積み重ねが必要な英語・数学に関しては毎週月曜日に実施しています。

Q.先取り授業を実施していますか？

A.3年生の3学期に高校の内容に入る程度の実践先取りをしています。「進度」よりむしろ「深度」を重視しています。

Q.習熟度別クラスにすることで生徒の意欲は無くなりませんか？

A.もちろん全員意欲があるというわけにはいきません。生徒の意欲は日々動きます。本校はコーチング面談を取り入れていますので、生徒自身が自分はどうしたいかを常に問いかけています。それにより意欲を持つ生徒が多くいます。現状では自分の学力にあった授業という要素の方がメリットが高いと考えています。また、5教科すべて習熟度別授業を実施しているので、ほとんどの生徒が最低1教科は習熟度が高いクラスに入っています。これにより他教科もがんばろうという意欲を持つことができていると考えています。

Q.塾に行く必要はありますか？

A.行く必要はありません。学校で推進している予習・復習をしっかりと行うことが学力向上の近道だと考えています。

理科教育について

Q.サイエンスラボ（理科実験授業）は強制ですか？

A.いいえ。選択制の授業です。しかし、さまざまな実験を実施するので、1年生の約7割が受講しています。クラブのない月曜日に実施しています。

Q.理科の取り組みが多いですが、ついていけますか？

A.理科の乗り組みの多くが、理科を好きになるためのものです。本校に入学してから理科が好きになったという生徒の方がむしろ多いくらいです。また、実験は問題解決力を育てるものだと考え、文系理系に関係なく取り組むことに意味があると思っています。楽しみにしててください。

学校生活について

Q.クラスは何人ですか？

A.クラスによって異なりますが、25人を原則としています。現在19～31名です。

Q.人数が少ないことで人間関係のトラブルがあったときに困りませんか？

A.中学高校の多感なときですから当然トラブルは発生します。それを乗り越えるのも立派な学習だと考えます。ただ、取り返しのつかない状況にならないよう教員が生徒をよく見るようにしています。具体的には、中学生のうちは、担任が生徒と一緒に昼食を食べて人間関係の変化等を見ています。また、生活ノートといって担任との交換日記のようなノートがあります。このノートに書かれる内容の変化等により担任が生徒に声をかけています。もしトラブルになった場合は、ご家庭と連絡を取りながら迅速に対応しています。

Q.いじめはありますか？

A.陰湿ないじめはありませんが、生徒同士のトラブルは前項のようにあります。対策に関しては前項のとおりです。

Q.クラブ活動は高校生と一緒にですか？また、週何回くらいですか？

A.ほとんどのクラブが一緒に実施しています。よって中学生と高校生の仲が良いというのが特色です。

文化部の多くは週に1回活動しています。日々の練習が必要な運動部と吹奏楽部は週4回練習をしています。

高校進学について

Q.高校進学時は試験等がありますか？また、一貫生と高入生は同じクラスですか。

A あります。しかし、本校は中高一貫校なので、合否を決めるためには実施していません。中学校3年間の学習の集大成・高校生になるという意識付けのために行っています。また、クラスは同じクラスです。現状では別々にするメリットよりも一貫性と高入生がお互いに良い刺激を与えるというメリットの方が大きいと考えています。

Q.Ⅰ類とⅡ類の違いは何ですか？

A.Ⅰ類は将来私立文系（栄養・保育を含む）を目指すコースです。Ⅱ類は難関私大（文系及び理系）、国公立（文系及び理系）を目指すコースです。よってⅠ類は英語・国語の時間数が多めになっています。Ⅱ類は数学の時間数が多いのと物理を選択できるようになっています。詳しくは「みとめる＊ひきだす」の35ページをご覧ください。

進学指導について

Q.大学進学に向けてどのような取り組みを行っていますか？

A.モチベーションアップと学力アップの両方を重視した取り組みを行っています。
モチベーションアップのためには、卒業までに約20人の女性（20代～30代）の話を聞くことで、自分の目標となる生き方に多く触れる機会を設けています。また、コーチング面談を実施することで、自分が今何をする必要があるのかを常に意識する機会があります。これと担任との面談（ティーチング面談）を組み合わせることで、自分の進路を真剣に考える機会が多くあります。
学力アップの基本はもちろん授業と家庭学習です。予習を強化することで授業の理解度を高めています。また、入学後の2週間は学校で予習をすることにおいて予習の良さを実感することができるプログラム（学習習慣強化プログラム）があります。学習の習慣を受験期の前につけることは進学指導においてとても重要と考えています。
その他、進学向けの講習を夏期・冬期・春期に集中して実施することでさらなる学力アップを目指します。

入試について

Q.特待生入試第2回の理科（実験レポート）は何をするのかよくわかりません。

A.教員が実施している実験の結果を記入することと考察を書くことが中心です。本校ホームページに模擬問題（動画）がアップされています。そちらをご覧ください。
<http://www.onogakuen.jp/chuko/40movie/index.php?key=answer>

その他

Q.海外修学旅行にいくらかかりますか？

A.25万円前後の予定です。今まで国内に中学・高校で各1回行っていました。その2回分の合計金額以下になるよう設定しています。

Q.特待生で入学した後どのくらいの人が継続していますか？

A.毎年成績、生活態度により更新しています。約8・9割の生徒が継続しています。

Q.小野学園小学校からどのくらい入学していますか？

A.小学校は定員が少なく、1学年に女子は20名ほどしかいません。また併設であって附属ではありませんので、毎年入学してくる生徒は数人です。

Q.どの辺から多く通っていますか。

A.東京と神奈川が中心です。特に大田区・品川区・目黒区・世田谷区、川崎市・横浜市の方が多く通われています。最近では、総武線快速・りんかい線を利用した千葉の方や、埼京線・京浜東北線・湘南新宿ラインを利用した埼玉の方もそれぞれ増えてきました。